

事項	移動式鶏舎による地鶏の発育及び食味の向上		
ねらい	常に草の生えている場所に移動する鶏舎（移動式鶏舎）による地鶏飼育は、鶏の闘争及びつき行動を減少させるとともに、発育を改善し、食味を高めるのに有効であるので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 移動式鶏舎の飼育効果</p> <p>(1) 飼育した鶏の体重は10週齢から対照より100～200g重くなる。</p> <p>(2) 闘争やつき行動が見られなくなる。</p> <p>(3) 移動式鶏舎の製作費は約39万円、1回100羽飼育を年間2回転し、中ぬき価格を200円/kg高く売ることによって償却費の増加額約5万2千円を差し引いても約3年で採算が取れる。</p> <p>(4) 移動式鶏舎の鶏肉はおいしさ、歯応え及び総合評価が向上する。</p> <p>2 移動式鶏舎の構造</p> <p>縦5.4m×横3.6m×高さ3.8mのビニールハウスを乗せて、トラクターで移動することが可能な車輪付きの懸架台。</p> <div data-bbox="359 1041 1420 1444" data-label="Diagram"> </div> <p style="text-align: center;"><b>図 移動式鶏舎の構造</b></p>		
期待される効果	地域資源（鶏、飼料、土地）を使った鶏肉生産技術として利用できる。		
利用上の注意事項	適正な飼養衛生管理を行いながら実施する。		
担当	青森農林総合研究センター畜産試験場 養鶏部	対象地域	県下全域
発表文献等	日本家禽学会 2005年春季大会		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 体重の週齢別推移 (g) (平成15～16年 青森農林総研畜試)

区分	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢
対照区(a)	443	806	1,300	1,774	2,372	2,626	3,408
試験区(b)	443	830	1,364	1,950	2,566	2,756	3,592
差(b-a)	0	24	64	176	194	130	184

表2 鶏の行動割合 (%) (平成15～16年 青森農林総研畜試)

区分	採食	飲水	休息	闘争行動	つつき行動	歩行	その他	合計
対照区	29	4	34	2	2	22	7	100
試験区	36	4	30	0	0	23	7	100

表3 移動式鶏舎の製作費回収に要する年数 (平成15～16年、青森農林総研畜試)

項目	試験区(a)	対照区(b)	差(a-b)
鶏舎製作費(円)	386,925	125,000	①261,925
耐用年数5年として鶏舎年間償却費(円)	77,385	25,000	②52,385
飼養羽数③	100	100	0
中ぬき重量(kg)④	2,586	2,454	0.132
中ぬき価格(円/kg)⑤	1,200	1,000	200
鶏舎回転数⑥	2	2	0
年間売上高(円) = ③ × ④ × ⑤ × ⑥	620,698	490,752	⑦129,946
移動式鶏舎製作費回収に必要な年数 = ① ÷ (⑦ - ②)			3.4

(注) 中ぬき：生体から血液、羽毛、頭、あし及び内臓を除去したものをいう



写真1 対照区



写真2 移動式鶏舎



写真3 鶏舎移動状況

表4 移動式鶏舎の鶏肉の食味評価 (平成15～16年 青森農林総研畜試)

項目	評点	有意性
香り	1.6	
味	1.4	†
歯応え	1.6	*
硬さ	-0.8	
総合評価	1.6	†

† : P<0.10, \* : P<0.05

(注) 1 硬さ以外の項目評点：わるい-2、ややわるい-1、差がない0、ややよい1、よい2  
 2 硬さの評点：かたい-2、ややかたい-1、差がない0、やややわらかい1、やわらかい2  
 3 パネラー：当時職員及び北里大学生41人  
 4 料理法：16週齢むね肉、3%食塩水に1時間浸け焼く